

世界自然遺産登録5周年
国立公園指定10周年記念

奄美・沖縄
子ども交流事業

子ども新聞

学び、深めた郷土愛

特別号



ピナイサーラの滝
ツアー



野生生物保護センターでの
環境学習



祖納集落 豊年祭へ参加



西表島小中学生との交流会



ナイトツアーで
夜の生き物観察



水牛車に乗り由布島へ

令和8年7月28日から31日までの4日間、奄美群島の中学生12名が西表島を訪れ、交流事業を実施しました。野生生物保護センターでの環境学習をはじめ、ピナイサーラの滝ツアーやナイトツアーなど、豊かな自然を体感するさまざまなエコツアーを体験。また、西表島の小中学生との交流会では、一緒に活動しながら交流を深めました。

奄美群島の中学生は、研修前に自分が住んでいる島と西表島の違いについて事前に学び、研修に臨みました。実際に西表島を訪れると、自然や文化の中に「違い」だけでなく、島同士の「共通点」もたくさん見つかりました。見て、聞いて、触れて、話して——。4日間の体験を通して、子どもたちは西表島の魅力を発見するとともに、自分たちが暮らす島の魅力も改めて見つめ直しました。

「 自然と共に 」

瀬戸内町立古仁屋中学校
3年 森 咲月

① 心に残ったこと

研修中、一番強く心に残ったことは、ナイトツアーです。今まで知らなかった生き物や見たことのなかった生き物を沢山見ることができたので楽しかったです。実際に見たり触れたりすることで、西表島に生息する生き物を身近に感じることができ、生き物に対する関心が湧いてきました。また、西表島では、その島を象徴するような存在であるイリオモテヤマネコの保護活動に力を入れており、実際に約1年の間一度もロードキルしていないことを知り、とても驚きました。初めてイリオモテヤマネコを見て感動しましたが、3回も見ることができたのはそんな取組のおかげだと感じました。

② 学んだこと・気づいたこと

西表島では、祖納集落の豊年祭を見ることができました。祖納集落の豊年祭は、私の住んでいる瀬戸内町とは全く違うもので、とても興味深いものでした。まず、踊りではドラと三線を使っていて、奄美大島とは音が違い、まさに琉球といった音色でした。祭りは、劇のような演出もあり、参加する皆が一体となっているような感覚でした。奄美大島でも自然は身近な存在ではありますが、個人的には奄美大島では自然と人を少し遠ざけて考えているような気がしました。しかし西表島では島全体で意識しているものがあり、また、アンダーパスやロードキル対策なども効果を発揮していて、人と自然は違うところもあるけれど一緒に生きていくもの、という認識がとても強いように感じられました。

③ 自分の成長につながったこと

この研修を終えて、自然や生態系について興味を持てるようになりました。また、人間が世界の中心ではなく、他の生き物も生きていて、そのお陰で人間が生活できているんだと感じられるようになりました。実際の行動の変化としては、地域の自然に関するイベントに積極的に参加したり、海水浴や道端で見かけた生物に興味を抱き、観察してみたりするようになりました。

④ これから、自分にできること

この研修で得た知識や興味関心を基に、自分の島の課題の問題解決の為に考えられるようになりたいです。また、より積極的に地域のイベントに参加してみたり、より詳しく知識をつけてみたりして自分の島の魅力をしっかりと伝えられるようにしたいです。そして、人も自然の一部だと思うので、人と自然で同じ地球に生きるものとして、一緒に生きていけるようにしたいです。

